

令和6年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析



令和6年11月
鹿児島県教育委員会

はじめに

令和6年4月18日、全国学力・学習状況調査が全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われ、その調査結果が7月末に公表されました。本県における今年度の学力調査の結果について、小学校においては、国語、算数ともに全国平均正答数とほぼ同等の結果となり、中学校においては、国語、数学ともに、全国平均正答数をやや下回る結果となりました。また、小学校、中学校ともに無解答率が全国よりも低く、児童生徒が粘り強く問題に取り組んでいることなどの成果も見られ、各市町村教育委員会及び各学校における日頃の実践の成果が表れていると受け止めております。

一方で、育成をめざす資質・能力のうち、「学びに向かう力、人間性等」について、例えば、児童生徒質問調査の「自分にはよいところがあると思うか」という自己肯定感に関する項目、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」という主体的な学びに関する項目や、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか」という自己調整力に関する項目などの「非認知能力」については、前回調査から引き続き、全国平均を下回っており、課題が継続していると捉えています。

県教育委員会では、学力の土台となる資質・能力である「学びに向かう力、人間性等」に関わる自己肯定感や自己調整力などの「非認知能力」や主体的な学びなどの「学び方」について、7月の結果速報時点としては初めて、児童生徒質問調査の状況を抜粋して公表しました。このことを踏まえ、本報告書では、児童生徒質問調査結果から抜粋し、公表した内容を中心として、「非認知能力」に着目した考察及び「学び方」に着目した考察を簡潔に整理しました。また、小・中学校各教科について、指導改善のポイントをまとめています。

各市町村教育委員会及び各学校においては、今回の調査結果を丁寧に分析し、成果や課題等を明らかにするとともに、教育指導の充実や学習状況の改善につなげてください。そのためには、単純に平均正答数などの差のみをもって評価するのではなく、児童生徒個々の誤答傾向や学習状況、標準偏差や中央値、分布の状況などと合わせて総合的に結果の分析等を行うとともに、それぞれの教科や学年にとどまらず、学校全体や近隣の小・中学校で課題を共有し、これまでの授業実践や指導法等を振り返るとともに、どのような取組が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのかを深く追究し、今後の改善策を具体的に検討してください。

県教育委員会としても、子供たちの「確かな学力」の向上と定着に向けて努めてまいりますので、各市町村教育委員会及び各学校におかれましても、本報告書も活用しながら、引き続き、児童生徒の「確かな学力」の向上と定着が図られるよう取組をお願いします。

1 教科に関する調査の結果概要	1
(1) 小学校6年 平均正答数・平均正答率	1
(2) 中学校3年 平均正答数・平均正答率	1
(3) 無解答率	1
2 教科別、観点別及び領域別の結果概要	2
(1) 小学校国語	2
(2) 小学校算数	3
(3) 中学校国語	4
(4) 中学校数学	5
3 総括及び考察	6
(1) 総括	6
(2) 考察① 「非認知能力」に着目した考察	9
(3) 考察② 「学び方」に着目した考察	13
4 指導法改善のポイント	17
(1) 国語【小学校第6学年】	17
(2) 算数【小学校第6学年】	19
(3) 国語【中学校第3学年】	21
(4) 数学【中学校第3学年】	23
(参考資料) 令和6年度全国学力・学習状況調査 質問調査結果概要	25
(1) 児童質問調査【小学校】の結果概要	25
(2) 生徒質問調査【中学校】の結果概要	27
(3) 学校質問調査【小学校】の結果概要	29
(4) 学校質問調査【中学校】の結果概要	32

1 教科に関する調査の結果概要

(1) 小学校6年 平均正答数・平均正答率

小学校では、国語、算数ともに、全国の平均正答数とほぼ同等の結果となった。

	国 語		算 数	
	鹿児島県	全 国	鹿児島県	全 国
令和6年度	9.6 / 14問 (69%)	9.5 / 14問 (67.7%)	10.0 / 16問 (62%)	10.1 / 16問 (63.4%)
【参考】 令和5年度	9.4 / 14問 (67%)	9.4 / 14問 (67.2%)	9.8 / 16問 (61%)	10.0 / 16問 (62.5%)

※ 県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

※ 全国平均正答率は、小数第二位を四捨五入した値である。

(2) 中学校3年 平均正答数・平均正答率

中学校では、国語、数学ともに、全国の平均正答数をやや下回る結果となった。

	国 語		数 学	
	鹿児島県	全 国	鹿児島県	全 国
令和6年度	8.4 / 15問 (56%)	8.7 / 15問 (58.1%)	8.0 / 16問 (50%)	8.4 / 16問 (52.5%)
【参考】 令和5年度	10.5 / 15問 (70%)	10.5 / 15問 (69.8%)	7.2 / 15問 (48%)	7.6 / 15問 (51.0%)

※ 県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

※ 全国平均正答率は、小数第二位を四捨五入した値である

(3) 無解答率

無解答率については、すべての教科で全国平均を下回っており、児童生徒が調査に粘り強く取り組んだことがうかがえる。

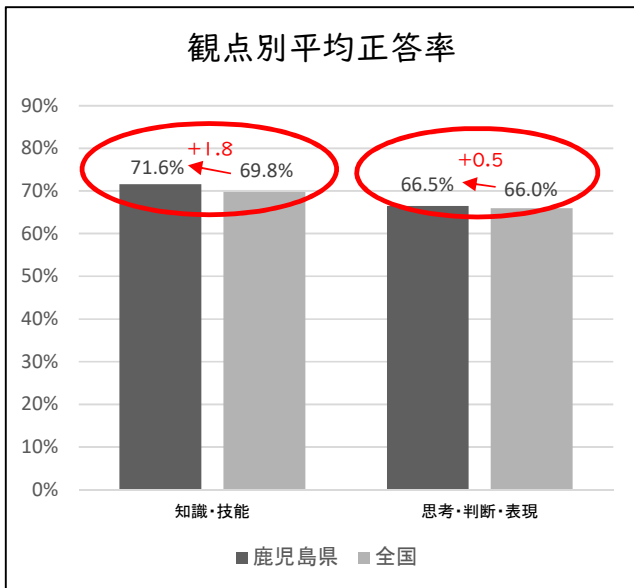
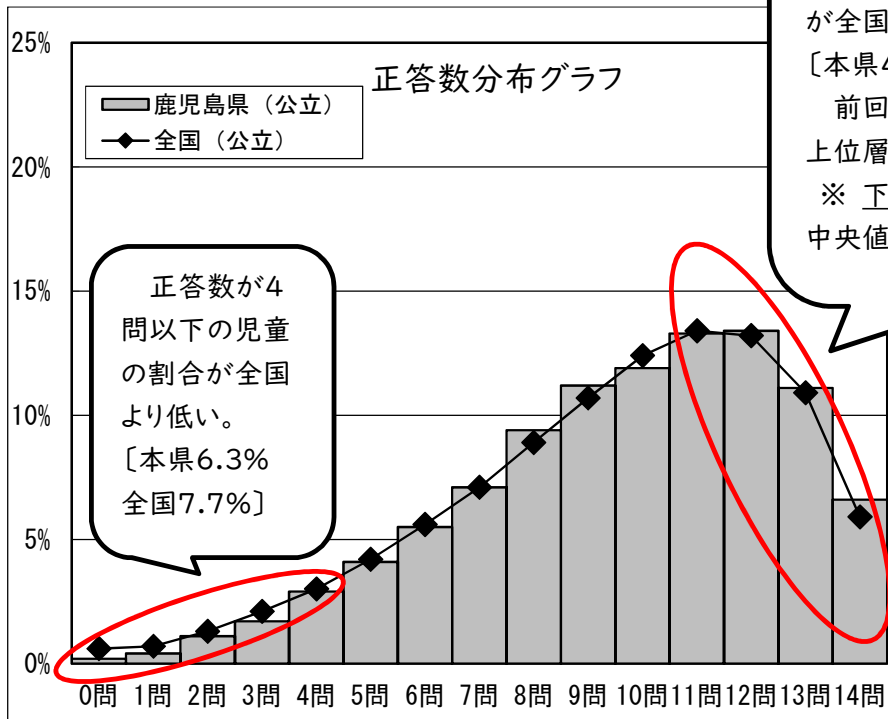
〈令和6年度〉

	国 語		算数・数学	
	鹿児島県	全 国	鹿児島県	全 国
小学校6年	2.4%	4.2%	2.1%	3.4%
中学校3年	3.5%	3.9%	10.3%	11.3%

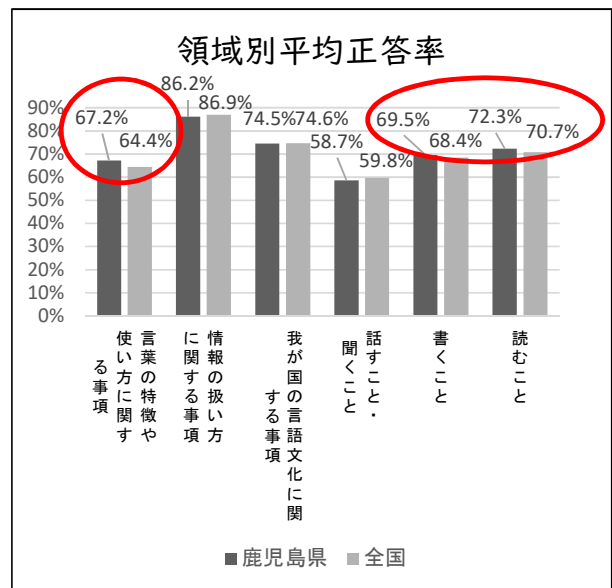
※ 本報告書における数値は、全国及び本県の公立学校の結果である。

2 教科別、観点別及び領域別の結果概要

(1) 小学校国語

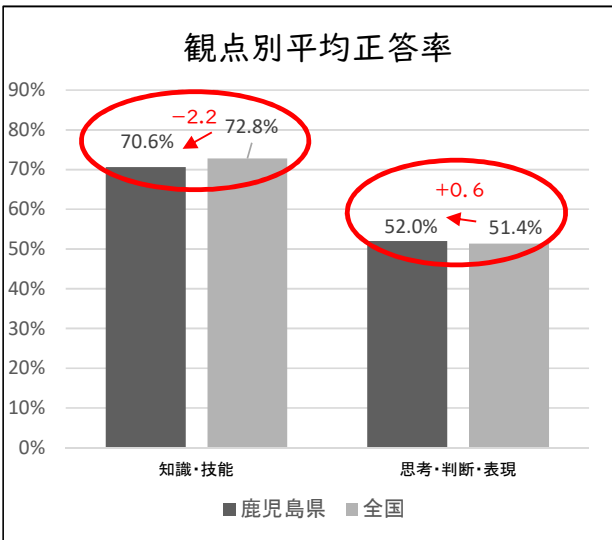
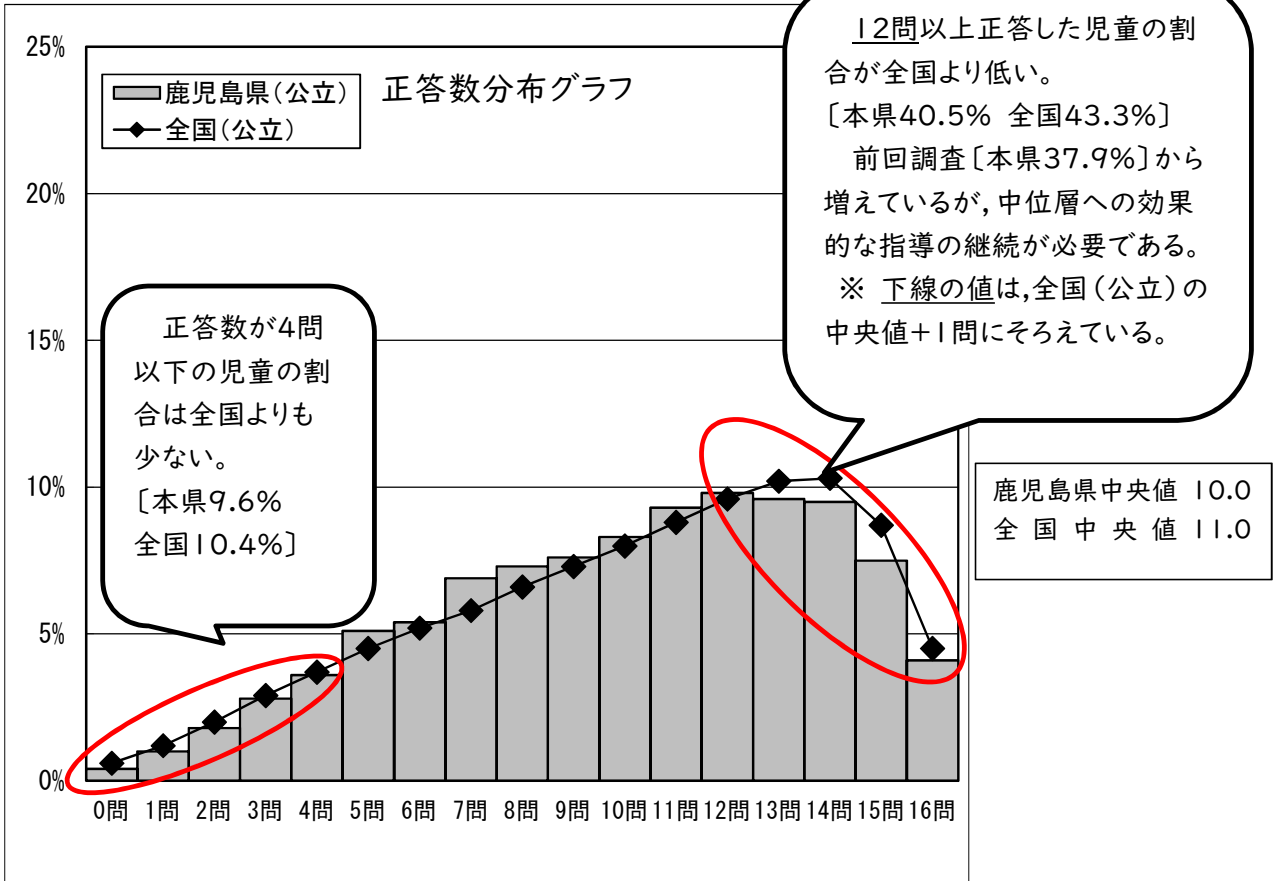


知識・技能は、前回調査では全国の平均正答率との差が-1.9であったが、今回調査では+1.8となった。
思考・判断・表現は、前回調査では全国の平均正答率との差が+1.2であったが、今回調査では+0.5となっている。



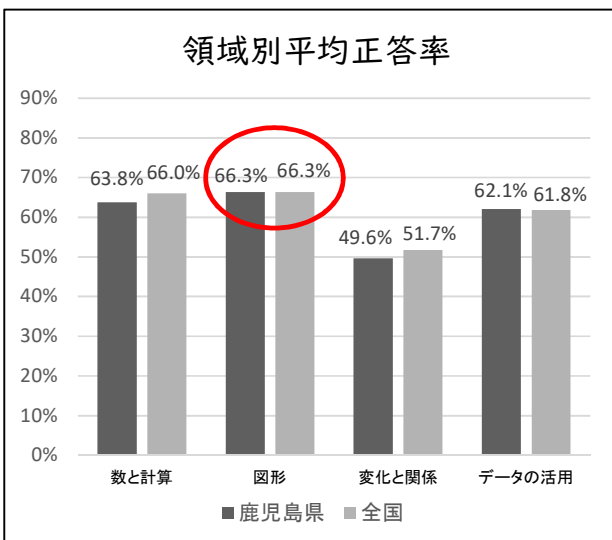
6領域のうち、3領域で全国の平均正答率を上回っている。「書くこと」と「読むこと」は、前回調査から引き続き全国の平均正答率を上回っている。
「言葉の特徴や使用に関する事項」の領域は、前回調査では全国の平均正答率より低かったが、今回調査では全国の平均正答率を上回っている。

(2) 小学校算数



知識・技能は、前回調査では全国平均正答率との差は-1.5であったが、今回調査は-2.2と差が広がっている。

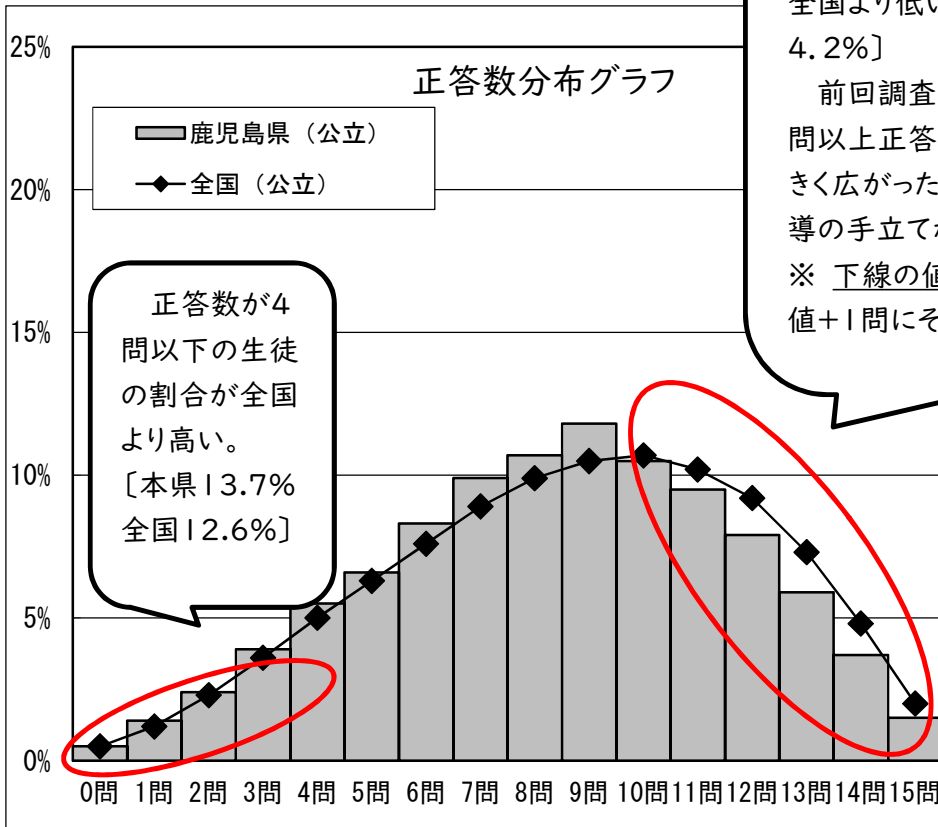
思考・判断・表現は、前回調査では全国平均正答率との差は-0.5であったが、今回調査は+0.6となっている。



4領域のうち、1領域で全国平均正答率を上回っている。

「図形」の領域は、前回調査では全国平均正答率との差は-0.4であったが、今回調査では同等となった。

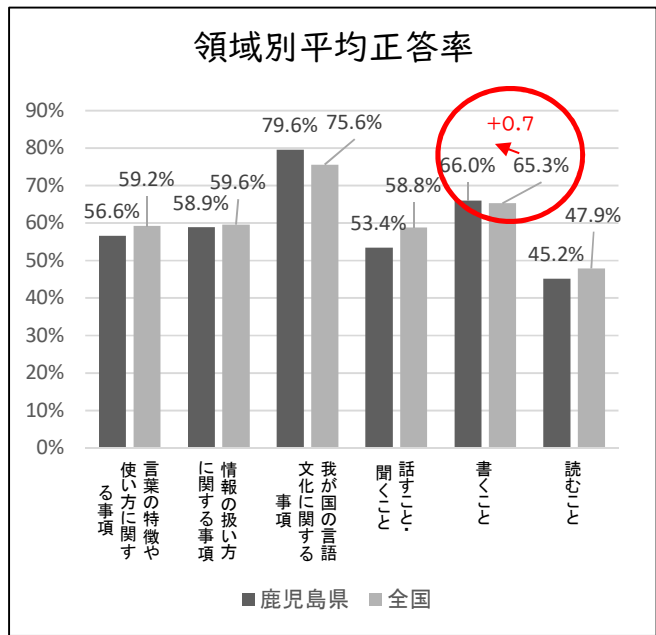
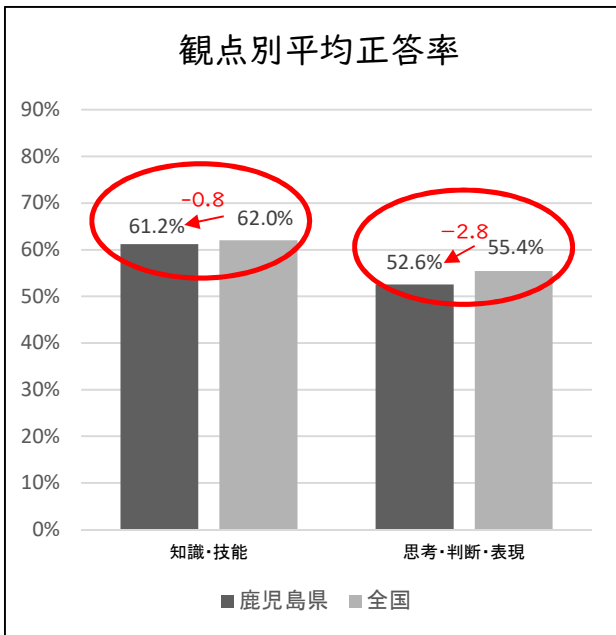
(3) 中学校国語



正答数が4問以下の生徒の割合が全国より高い。
[本県13.7% 全国12.6%]

10問以上正答した生徒の割合が全国より低い。[本県39.0% 全国44.2%]
前回調査[全国との差+0.3(12問以上正答)]より、全国との差が大きく広がったことから、中位層への指導の手立てが必要である。
※ 下線の値は、全国(公立)の中央値+1問にそろえている。

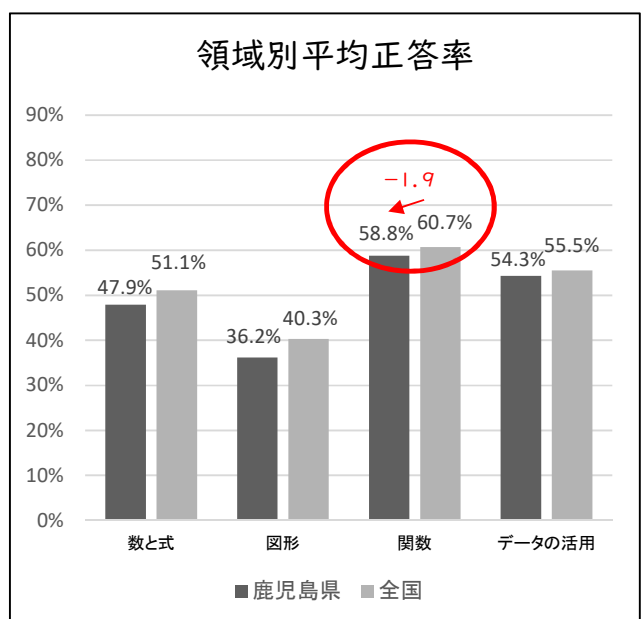
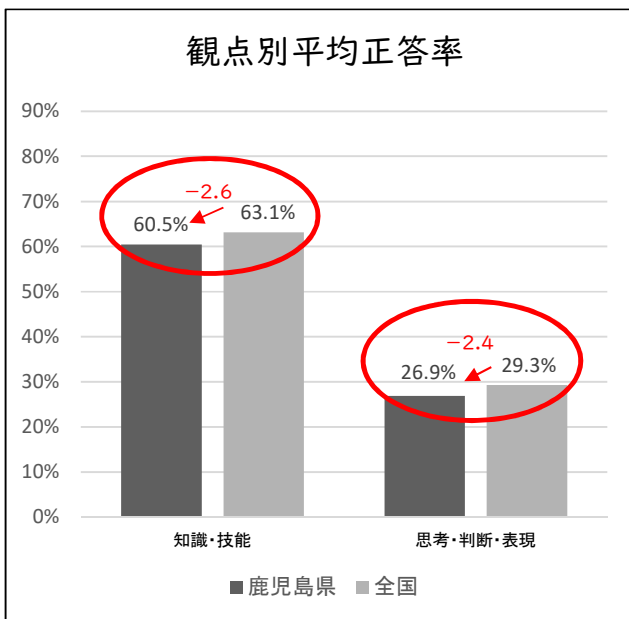
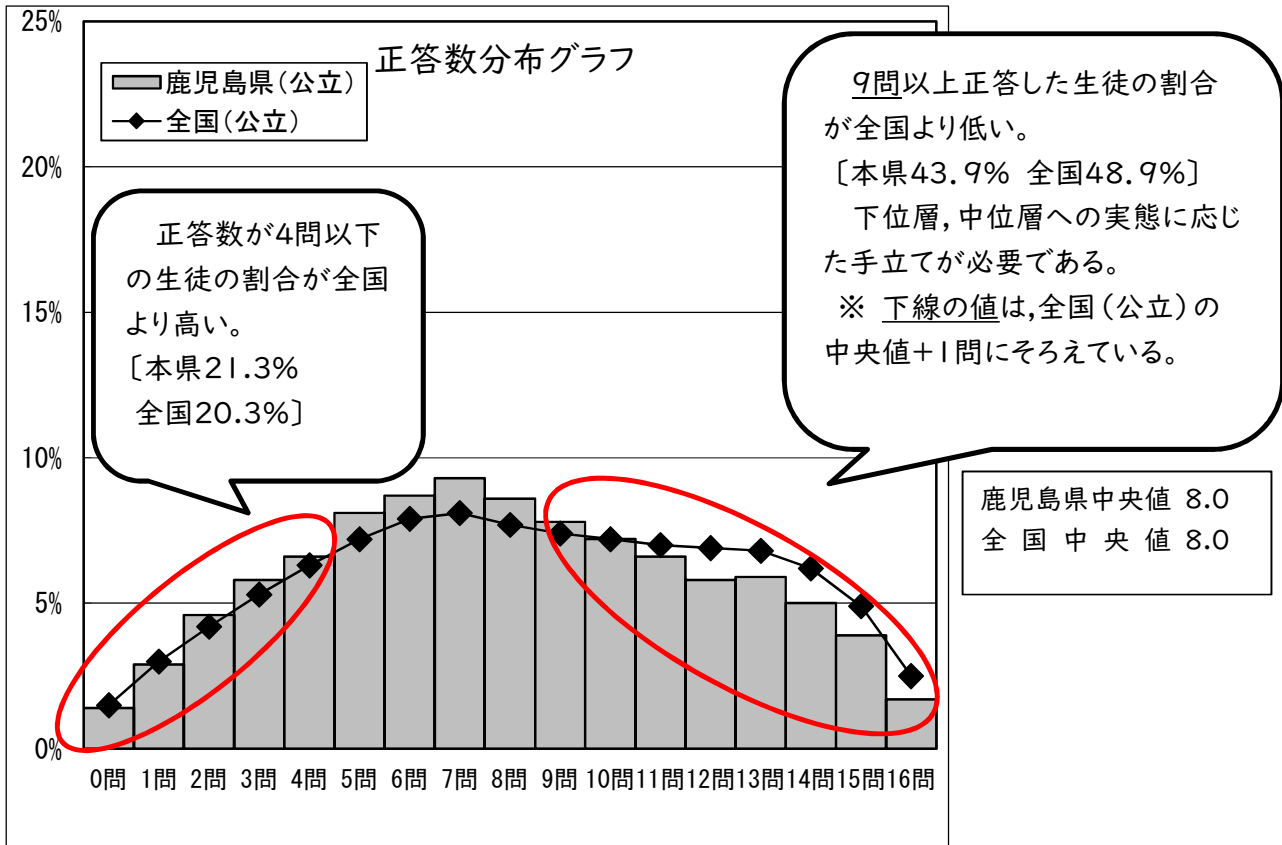
鹿児島県中央値 9.0
全国中央値 9.0



知識・技能は、前回調査では全国平均正答率との差が+1.5であったが、今回調査では-0.8と下回った。
思考・判断・表現は、前回調査では全国平均正答率との差が-0.5であったが、今回調査では-2.8と差が広がっている。

6領域のうち、前回調査では全国平均正答率を4領域で上回ったが、今回調査では2領域のみであった。
前回調査の「書くこと」は全国平均正答率との差は-1.8であったが、今回調査では+0.7となり上回った。

(4) 中学校数学



知識・技能, 思考・判断・表現ともに, 全国の平均正答率を下回っている。
知識・技能は, 前回調査から全国の平均正答率との差が-3.2から-2.6に, 思考・判断・表現は, -3.0から-2.4に縮まってきている。

4領域すべてにおいて, 全国の平均正答率を下回っている。
前回調査の「関数」は, 全国の平均正答率との差が-3.6だったものが, 今回調査では-1.9に縮まってきている。

3 総括及び考察

(I) 総括

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）及び「学び方」から見た状況は以下のア・イのとおりです。

ア 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の状況

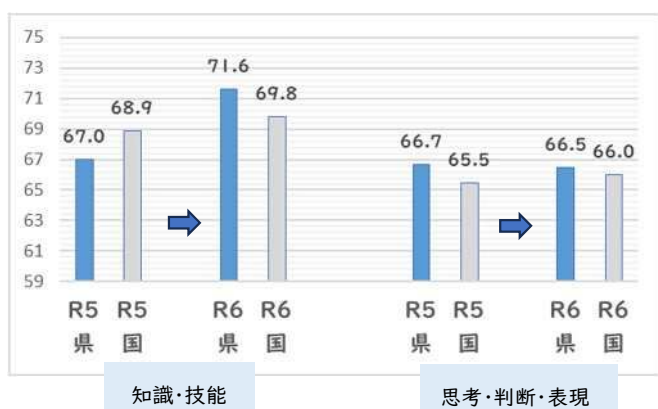
[表1]各教科の観点別正答率

鹿児島県		小学校			中学校		
教科	観点	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
国語	知識・技能	71.6	69.8	1.8	61.2	62.0	-0.8
	思考・判断・表現	66.5	66.0	0.5	52.6	55.4	-2.8
算数 数学	知識・技能	70.6	72.8	-2.2	60.5	63.1	-2.6
	思考・判断・表現	52.0	51.4	0.6	26.9	29.3	-2.4

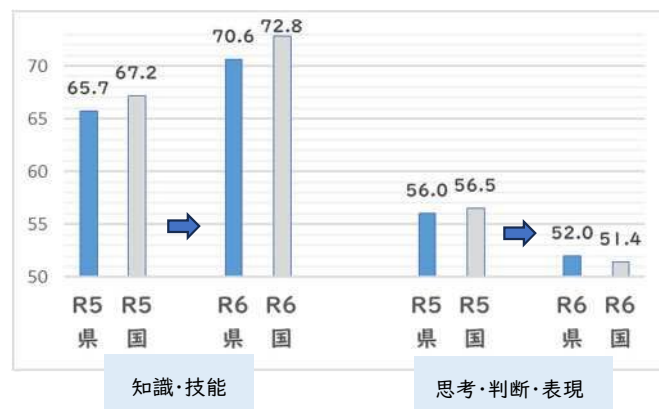
※ 県平均、全国平均の数値は平均正答率（％）

[グラフ1]各観点別正答率(%)の全国との差

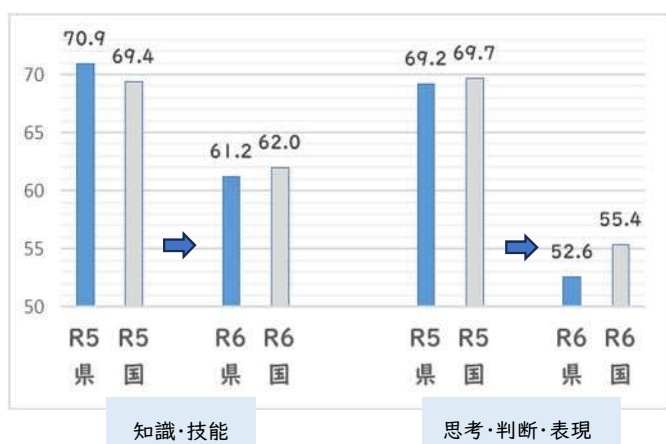
【小学校国語】



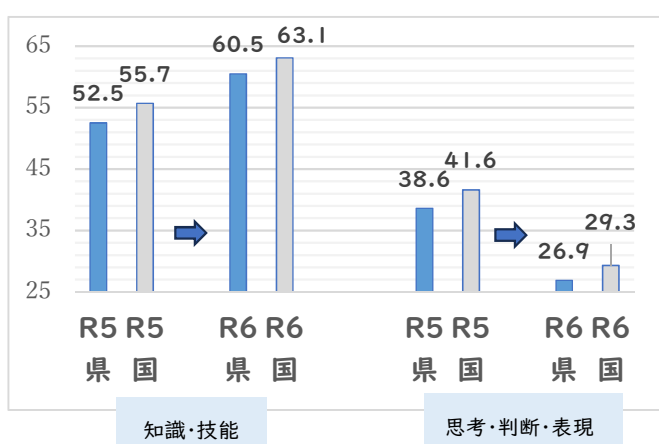
【小学校算数】



【中学校国語】



【中学校数学】



小学校国語の「知識・技能」、算数の「思考・判断・表現」の観点については、昨年度は全国平均を下回っていましたが、今年度は上回り、伸びが見られました。一方、算数の「知識・技能」は昨年度に続いて、全国平均を下回り、全国との差が広がっています。

中学校は、すべての観点で全国平均を下回りました。数学については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに全国平均との差は縮まってきている状況です。

イ 「学びに向かう力、人間性等」 ， 「学び方」等の状況

[表1]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
① 自分によいところがあると思う。 【自己肯定感】	R5	35.5	42.6	-7.1	30.9	37.2	-6.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	36.8	43.4	-6.6	36.0	40.4	-4.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
② 先生は、あなたのよいところを認めてく れていると思う。【自己肯定感】	R5	45.2	49.9	-4.7	33.7	40.0	-6.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	44.9	48.8	-3.9	38.9	44.2	-5.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
③ 困りごとや不安がある時に、先生や学校 にいる大人にいつでも相談できる。	R5	29.7	33.4	-3.7	26.4	31.2	-4.8
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	27.0	30.2	-3.2	24.8	28.7	-3.9
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
④ 学校に行くのは楽しいと思う。 【ウェルビーイング】	R5	53.1	49.8	3.3	45.4	43.3	2.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	51.6	47.2	4.4	46.3	43.5	2.8
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑤ 分からないことや詳しく知りたいことが あったときに、自分で学び方を考え、工夫 することができている。【自己調整力】	R6	29.8	30.3	-0.5	26.8	28.2	-1.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑥ 授業でPC・タブレットなどのICT機 器を、ほぼ毎日使用した。【ICT活用】	R5	32.9	28.2	4.7	20.7	28.1	-7.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	31.0	25.3	5.7	31.6	31.0	0.6
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑦ 授業では、課題の解決に向けて、自分 で考え、自分から取り組んでいた。 【主体的な学び】	R5	28.1	30.5	-2.4	28.0	30.4	-2.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	27.6	29.5	-1.9	24.1	27.2	-3.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑧ 授業は、自分にあった教え方、教材、学 習時間などになっていた。 【個別最適な学び】	R5	39.4	37.3	2.1	20.2	22.6	-2.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	36.0	34.4	1.6	21.8	24.9	-3.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑨ 学級の生徒との間で話し合う活動を通 じて、自分の考えを深めたり、新たな考え 方に気付いたりすることができている。 【対話的な学び・協働的な学び】	R5	36.4	38.6	-2.2	33.2	34.3	-1.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	40.0	41.4	-1.4	34.5	36.4	-1.9
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑩ 学習した内容について、分かった点や、 よく分からなかった点を見直し、次の学習 につなげることができている。【省察力】	R5	31.4	31.0	0.4	22.5	23.1	-0.6
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	33.4	31.9	1.5	26.1	27.1	-1.0
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑪ 授業で学んだことを次の学習や実生活 に結びつけて考えたり、生かしたりするこ とができると思う。【自己調整力】	R5	37.9	39.0	-1.1	21.1	24.0	-2.9
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	35.8	35.9	-0.1	26.2	27.5	-1.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑫ 国語の授業の内容はよく分かる。	R5	39.4	40.4	-1.0	26.7	30.4	-3.7
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	36.6	39.2	-2.6	27.8	32.0	-4.2
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑬ 算数(数学)の授業の内容はよく分か る。	R5	44.8	45.2	-0.4	33.8	33.9	-0.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	45.6	44.9	0.7	32.5	35.1	-2.6
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)。選択肢4つのうち、最も肯定的な回答の割合。

※ ⑥~⑧は、小学校は「5年生までに受けた授業」、中学校は「1・2年生のときに受けた授業」について回答

県教育委員会は、学力の土台となる資質・能力である「学びに向かう力，人間性等」に関わる「非認知能力」や主体的な学びなどの「学び方」等について，7月の結果速報時点としては初めて，児童生徒質問調査の状況を抜粋して公表しました（表1）。自己肯定感や自己調整力等の「非認知能力」については，全国を下回る結果となっており，依然として課題が継続しています。

児童生徒が「確かな学力」を身に付けるためには，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」及び「学びに向かう力，人間性等」の三つの資質・能力をバランスよく育成する必要があります。「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」は相互に関連しながら育成されるものであることから，今後も引き続き，「習得と活用のバランス」に留意しながら，学習目標を達成するために効果的な「学び方」を工夫していくことが大切です。また，「学びに向かう力，人間性等」については，前回調査から継続して課題として挙げられる自己肯定感や自己調整力などの「非認知能力」の育成をより意識した教育活動を進める必要があります。加えて，児童生徒の資質・能力や非認知能力等の育成のためや，児童生徒は学校において授業の時間を多く過ごすことから，今回，小学校の算数以外で差が広がった「授業の内容はよく分かる」の向上に向けて，個別最適な学習などの授業改善を進める必要があります。

また，国語，算数・数学の教科に関する調査結果に着目すると，話し合いなどの言語活動の目的を意識することや，データを言葉や数で表す力を身に付けること等の課題が明らかになっています。その改善に向けては，小中連携をよりよく図ることが重要です。小学校から中学校を通じて，発達の段階を踏まえた系統的な理解を深めていく中で，児童生徒は求められる資質・能力を身に付け，高めていきます。各学校は，自校の学力・学習状況調査から見える成果と課題について，近隣の小・中学校と共有し，小・中学校を通じて児童生徒の資質・能力を育成することを共通理解し，教育活動の工夫・改善に対応していくことが重要です。

次節からは，上記について，児童生徒質問調査の結果等を踏まえ，「非認知能力」に着目した考察及び「学び方」に着目した考察，小・中学校各教科の指導法改善のポイントを示していきます。

(2) 考察① 「非認知能力」に着目した考察

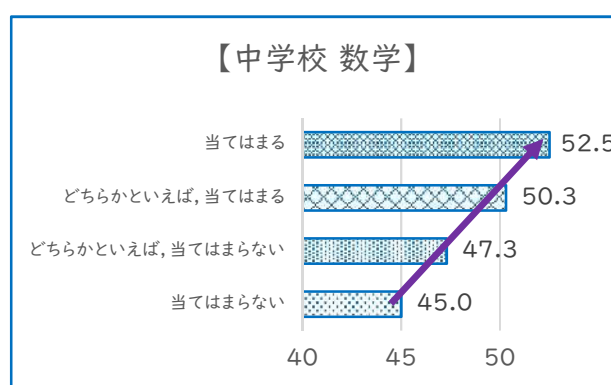
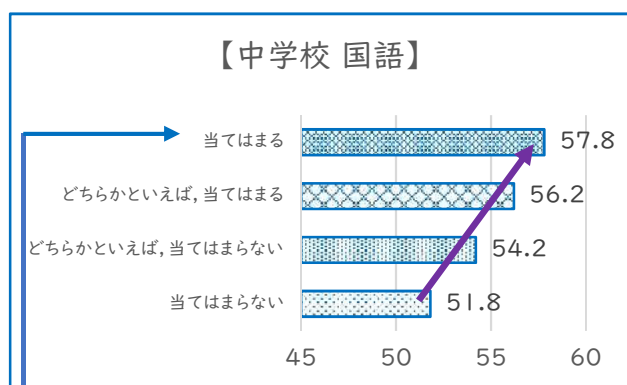
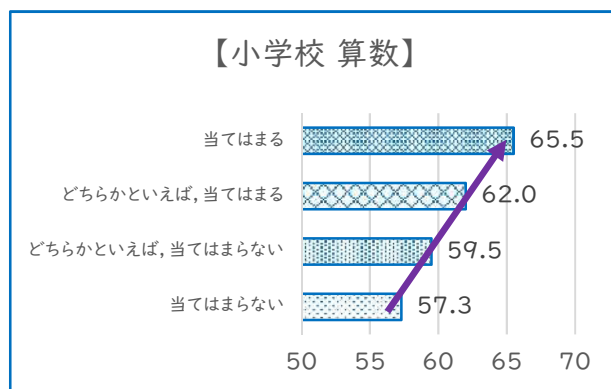
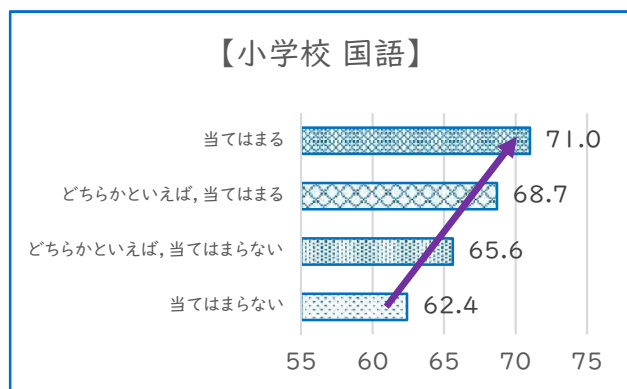
ア 「非認知能力」と学力調査の正答率との関係

【分析結果のポイント】

- 自己肯定感や自己調整力などの「非認知能力」に関する質問項目について、肯定的に回答している児童生徒は学力調査における平均正答率が高い傾向にある。

下のグラフは、質問①「自分にはよいところがあると思う」について、本県児童生徒が回答した選択肢ごとに各教科の平均正答率を示したものであり、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が高くなっていることが分かる。質問①以外の「非認知能力」に関する質問項目においても同様の傾向が見られる。

[グラフ 2]質問①:選択肢別の平均正答率(%)



表の見方：例えば，【中学校国語】において，「自分にはよいところがあると思うか」の質問項目について「当てはまる」と回答した本県生徒の平均正答率が57.8%であったことを示している。

イ 自己肯定感について

【分析結果のポイント】

- 「①自分にはよいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに増加した。全国との差は、小・中ともに縮まっているものの、依然、全国よりも低い状況である。
- 「①自分にはよいところがあると思う」と「②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」には正の相関が見られる。
- 「②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と「③困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」には、中学校において正の相関が見られる。

[表2]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
① 自分によいところがあると思う。 【自己肯定感】	R5	35.5	42.6	-7.1	30.9	37.2	-6.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	36.8	43.4	-6.6	36.0	40.4	-4.4
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。【自己肯定感】	R5	45.2	49.9	-4.7	33.7	40.0	-6.3
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	44.9	48.8	-3.9	38.9	44.2	-5.3
③ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	R5	29.7	33.4	-3.7	26.4	31.2	-4.8
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	27.0	30.2	-3.2	24.8	28.7	-3.9

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

[表3]児童生徒質問調査 質問①と質問②の相関

【小学校】	質問②	【中学校】	質問②
質問①	◎	質問①	◎
相関係数 (r)	0.44	相関係数 (r)	0.43

[表4]児童生徒質問調査 質問②と質問③の相関

【小学校】	質問③	【中学校】	質問③
質問②	○	質問②	◎
相関係数 (r)	0.36	相関係数 (r)	0.41

(凡例)

◎：正の相関が見られる。(0.4≦r≦0.7)

○：弱い正の相関が見られる。(0.2≦r≦0.4)

ウ 自己調整力について

【分析結果のポイント】

- 「⑤分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童生徒の割合は、全国をやや下回っている。また、「⑩授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と回答した生徒の割合は、中学校において昨年度よりも5.1ポイント増加した。
- 「⑤分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と「⑫国語の授業の内容はよく分かる」、「⑬算数(数学)の授業の内容はよく分かる」には、弱い正の相関が見られる。
- 「⑩授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」と「⑫国語の授業の内容はよく分かる」、「⑬算数(数学)の授業の内容はよく分かる」には、弱い正の相関が見られる。

[表5]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
⑤ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。【自己調整力】	R6	29.8	30.3	-0.5	26.8	28.2	-1.4
⑩ 授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。【自己調整力】	R5	37.9	39.0	-1.1	21.1	24.0	-2.9
	R6	↓ 35.8	↓ 35.9	↓ -0.1	↓ 26.2	↓ 27.5	↓ -1.3

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

※ ⑩の質問は、前回調査では「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」であったが、同趣旨と捉え、今回調査と比較した。

[表6]児童生徒質問調査 質問⑤と質問⑫・⑬の相関

【小学校】	質問⑫	質問⑬	【中学校】	質問⑫	質問⑬
質問⑤	○	○	質問⑤	○	○
相関係数(r)	0.25	0.32	相関係数(r)	0.23	0.30

質問⑫ 国語の授業の内容はよく分かる。
質問⑬ 算数(数学)の授業の内容はよく分かる。

[表7]児童生徒質問調査 質問⑩と質問⑫・⑬の相関

【小学校】	質問⑫	質問⑬	【中学校】	質問⑫	質問⑬
質問⑩	○	○	質問⑩	○	○
相関係数(r)	0.32	0.29	相関係数(r)	0.24	0.25

(凡例)

◎：正の相関が見られる。(0.4≦r≦0.7)

○：弱い正の相関が見られる。(0.2≦r≦0.4)

エ ウェルビーイングについて

【分析結果のポイント】

- 「④学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、前回に続いて全国を上回っている。
- 「④学校に行くのは楽しいと思う」と「②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」には、弱い正の相関が見られる。

[表8]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
④ 学校に行くのは楽しいと思う。 【ウェルビーイング】	R5	53.1	49.8	3.3	45.4	43.3	2.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	51.6	47.2	4.4	46.3	43.5	2.8

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

[表9]児童生徒質問調査 質問④と質問②の相関

【小学校】	質問②	【中学校】	質問②
質問④	○	質問④	○
相関係数 (r)	0.34	相関係数 (r)	0.34

質問② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

(凡例)

◎ : 正の相関が見られる。(0.4 ≤ r ≤ 0.7)

○ : 弱い正の相関が見られる。(0.2 ≤ r ≤ 0.4)

考察① 「非認知能力」に着目した考察

1 自己肯定感を高めるために

「2 自己肯定感」の分析より、児童生徒の自己肯定感と教師(学校)の関わりが大切であることが分かる。教師が児童生徒のよさを認めたり、活動や取組を価値付けたりするとともに、先生や学校にいる大人に相談しやすい関係づくり、仕組みづくりに努めることが求められる。

2 自己調整力と「学習内容がよく分かる実感」の関係

「3 自己調整力」の分析により、「自分で学び方を考え、工夫したり、学んだことを次に生かしたりできること」と「学習内容が分かる実感していること」の間に相関は認められた。自己調整力を発揮した学びをとおして、学習内容がよく分かる実感につながるように、一律・一斉・一方向の学習から児童生徒が学び方を自己選択・自己決定できる学習への転換を図り、児童生徒が学び方を身に付け、それを生かす場面を充実させることが大切である。

3 ウェルビーイングを高める要素

本県の児童生徒は全国に比べて、「学校に行くのは楽しいと思う」と感じている割合が高く、本県のよさであると言える。各学校において行事や特色ある活動は行われているところではあるものの、本調査項目からその要因の特定はできなかった。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との間に弱い正の相関が見られることから、教師の関わり方がポイントの一つであることはうかがえる。

(3) 考察② 「学び方」に着目した考察

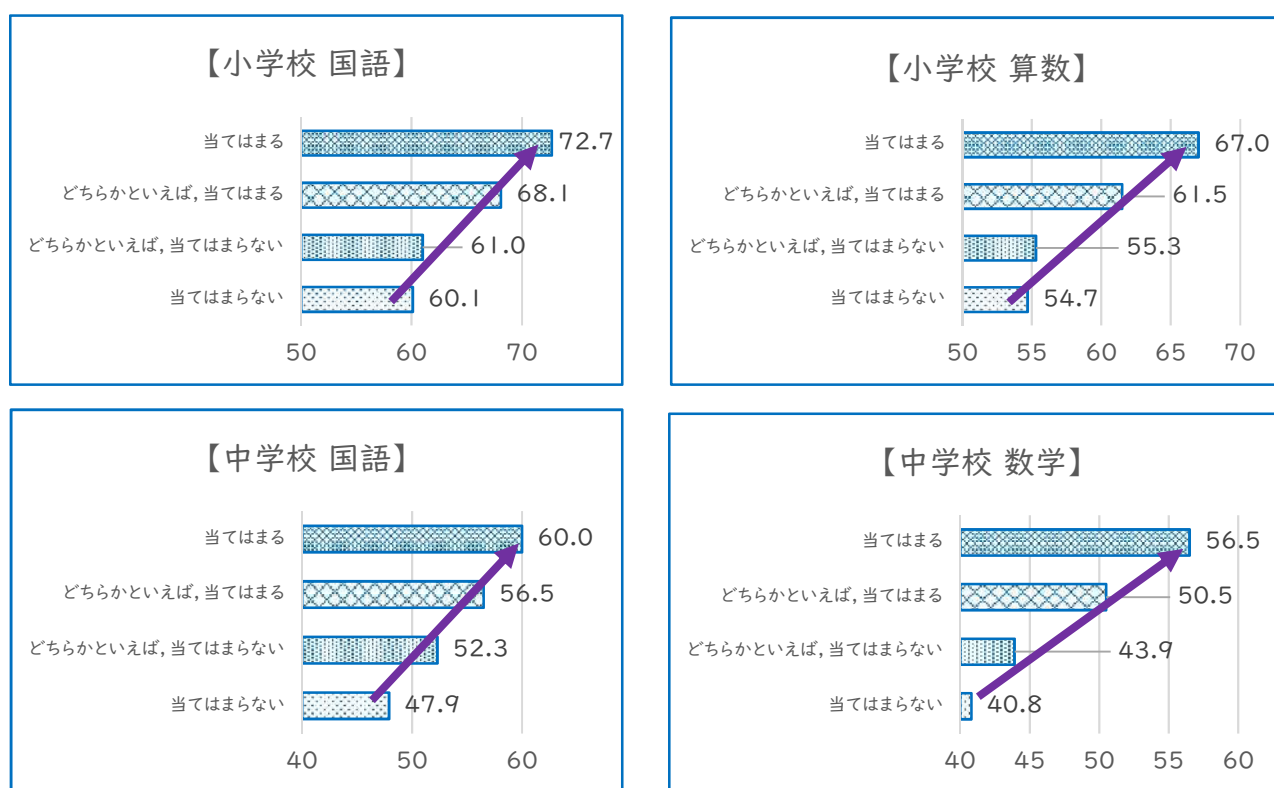
ア 「学び方」と学力調査結果の関係

【分析結果のポイント】

- 個別最適な学びや協働的な学びなどの「学び方」に関する質問項目について、「できている」と肯定的に回答している児童生徒は、学力調査における平均正答率が高い傾向にある。

下のグラフは、質問⑧「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていった」について、本県児童生徒が回答した選択肢ごとに各教科の平均正答率を示したものであり、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が高くなっていることが分かる。その他の「学び方」に関する質問項目においても同様の傾向が見られた。

【グラフ3】質問⑧:選択肢別の平均正答率(%)



【参考】「主体的な学び」などによく取り組んでいる児童生徒とそうでない児童生徒の平均正答率には10ポイント以上の開きがある傾向

- 「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率と「当てはまらない」と回答した児童生徒の平均正答率の差(ポイント)

質問項目	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
⑦ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 【主体的な学び】	18.5	21.9	22.1	26.7
⑧ 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 【個別最適な学び】	12.6	12.3	12.1	15.7
⑨ 学級の児童(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。 【対話的な学び・協働的な学び】	15.3	14.1	14.7	16.3

イ ICTの活用について

【分析結果のポイント】

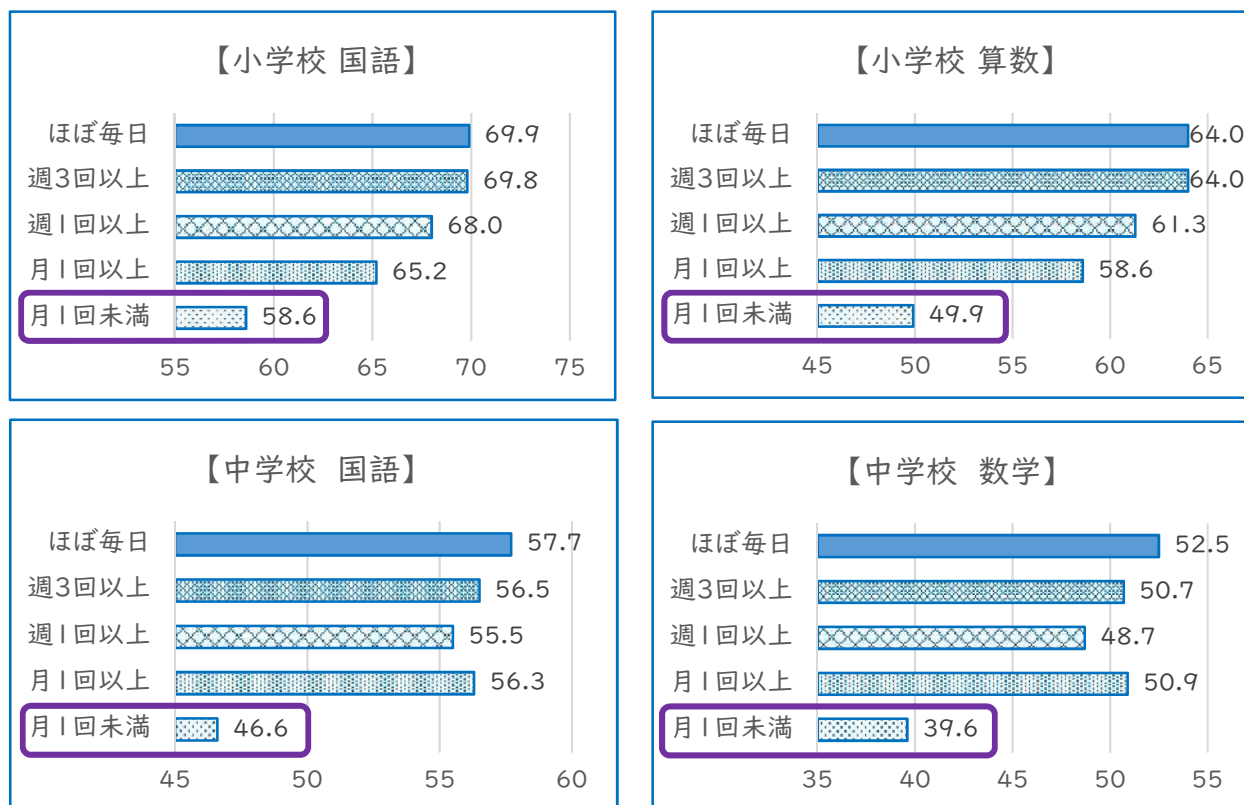
- 授業でICT機器を「ほぼ毎日」使用したと回答した児童生徒の割合は、全国を上回っている。中学校においては、前回調査から10.9ポイント上昇した。
- 授業におけるICT機器の使用機会が月に数回もしくは月1回未満である児童生徒の学力調査における平均正答率は低い傾向にある。

[表 10]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号	小学校			中学校			
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差	
⑥ 授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用した。【ICT活用】	R5	32.9	28.2	4.7	20.7	28.1	-7.4
	R6	31.0	25.3	4.7	31.6	31.0	0.6

※ 数値は「ほぼ毎日使用した」と回答した割合(%)

[グラフ4]質問⑥:選択肢別の平均正答率(%)



【参考】 授業におけるICT機器の活用頻度～児童生徒と教師の認識に開きがある傾向

- 児童生徒対象 「授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」
- 学校対象 「児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」 (いずれも本県回答:%)

	児童の回答	学校の回答(小)	生徒の回答	学校の回答(中)
ほぼ毎日	31.0	75.4	31.6	66.8
週3回以上	37.8	21.8	33.3	25.4
週1回以上	22.3	2.6	24.2	7.8
月1回以上	6.0	0.0	7.6	0.0
月1回未満	2.9	0.0	3.0	0.0

ウ 「主体的な学び」 などについて

【分析結果のポイント】

- 「⑦授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」という質問項目について「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度よりも減少した。特に、生徒の割合は3.9ポイント減少した。
- 「⑧授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」という質問項目について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、昨年度よりも減少した。生徒の割合はやや増加したが、全国との差は広がっている。学校質問調査において、「児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」と回答した割合は全国よりも高いにも関わらず、特に小学校において、生徒の実感との乖離が見られる。
- 「⑨話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」という質問項目について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、昨年度よりも増加した。
- 「主体的な学び」と「個別最適な学び」には、正の相関が見られる。

[表 11]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
⑦ 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。 【主体的な学び】	R5	28.1	30.5	-2.4	28.0	30.4	-2.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑧ 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。 【個別最適な学び】	R5	39.4	37.3	2.1	20.2	22.6	-2.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
⑨ 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。 【対話的な学び・協働的な学び】	R5	36.4	38.6	-2.2	33.2	34.3	-1.1
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	40.0	41.4	-1.4	34.5	36.4	-1.9

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合 (%)

[表 12]学校質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか。【個別最適な学び】	R5	39.3	27.8	11.5	24.2	24.6	-0.4
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	R6	39.0	26.5	12.5	27.3	21.2	6.1

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合 (%)

[表 13]児童生徒質問調査 質問⑦と質問⑧の相関

【小学校】	質問⑧	【中学校】	質問⑧
質問⑦	◎	質問⑦	◎
相関係数 (r)	0.43	相関係数 (r)	0.44

(凡例)

◎：正の相関が見られる。

(0.4 ≤ r ≤ 0.7)

○：弱い正の相関が見られる。

(0.2 ≤ r ≤ 0.4)

エ 学びの振り返りについて

【分析結果のポイント】

- 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」という質問項目について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国を上回っている。中学校については、昨年度よりも3.6ポイント増加した。
- 「家庭学習の工夫」について取組を行った学校の割合は、小学校は全国を上回り、中学校は下回る結果となった。

[表 14]児童生徒質問調査から(全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較)

質問項目 ※ 番号は本報告書における質問番号		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
⑩ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。 【省察力】	R5	31.4	31.0	0.4	22.5	23.1	0.6
	↓ R6	↓ 33.4	↓ 31.9	↓ 1.5	↓ 26.1	↓ 27.1	↓ 1.0

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

[表 15]学校質問調査から(全国と鹿児島県の本年度の比較)

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。【家庭学習】	R6	37.3	36.0	1.3	21.5	24.7	-3.2

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

考察②「学び方」に着目した考察

1 ICT活用の更なる推進

ICT活用については、「授業でICT機器を『ほぼ毎日』使用したと回答した児童生徒の割合は全国を上回っており、本県のよさであると言える。一方、今回の調査結果から、ICT活用と「授業内容がよく分かる」等との相関が見られなかったことや、教師の認識以上に、児童生徒はICT機器を活用している実感をもてていない現状があることから、今後、学習のねらいに即して、ICT機器を活用した学習を質・量ともに一層充実させる必要がある。

2 「学習者主体の授業」の充実

主体的に学んでいると実感している児童生徒は学力調査の結果も高い傾向にある。また、自分にあった学習ができている実感と主体性の高まりには相関が認められることから、一律・一斉・一方向のみによる授業から脱却し、学習内容や方法等を児童生徒が自己選択・自己決定する場面、協働して学びを深める場面とのバランスを考慮した単元デザイン、授業実践の工夫が大切であり、今後一層「学習者主体の授業」づくりを進めていく必要がある。

3 自ら計画し、自ら学ぶ家庭学習

「確かな学力」の育成を図るためには、学校の授業改善に加え、家庭学習の充実が欠かせない。家庭学習は、教師が指示する課題のみに取り組む学習から脱却し、児童生徒が自分の学びを振り返り、自らの問いや必要性に基づいて、自ら計画を立て、自ら学ぶ家庭学習を進めることが大切である。

4 指導法改善のポイント 国語【小学校第6学年】

◆ 授業改善のポイント

- 単元の指導計画を作成する中で、教材研究や言語活動研究を行い、指導事項の重点化、評価場面や評価方法の明確化を図る。
- 学習者が目的意識と相手意識を明確にもちながら主体的に取り組む言語活動を設定する。（言語活動を行うことが目的にならないように留意する。）

◆ 正答の状況

年 度		令和6年度	令和5年度
平均正答数	県	9.6問 / 14問	9.4問 / 14問
	全国	9.5問 / 14問	9.4問 / 14問
平均正答率	県	69%	67%
	全国	67.7%	67.2%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：記述式問題（「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」「物語の人物像や全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」）

課題①：漢字を文の中で正しく使う問題

課題②：目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題

◆ 成果が見られた問題の概要 大問3(三)

【学習指導要領における内容】

〔第5学年及び第6学年〕

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

設問番号 3 (三)				
平均正答率	本県	全国	差	自校
(%)	78.6	72.6	+6.0	

【設問の概要】 物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。

【指導継続のポイント】

- 「読むこと」の学習と読書活動の関連を意識した指導を継続する。その際、1人1台端末を効果的に活用し、読書記録を残したり、友達と交流したりする機会を設定する。
 - ・ 本の内容（どのような話だったか）だけでなく、本を読む観点（どのように読むと物語のよさに気付くことができるか）を意識させる。
 - ・ 「心に残ったところ」と「心に残った理由」を区別しながら言語化することを意識させる。
 - ・ 「心に残ったところ」を言語化させるために、叙述の主語を意識して登場人物の行動や会話に着目させたり、丁寧に言葉の意味や場面の様子を確認したりする。
 - ・ 「心に残った理由」を言語化させるために、根拠となる叙述を、複数の叙述と結び付けて考えさせたり、思考に関わる語句（「なぜなら」「～からです。」など）を使用させたりする。

◆ 課題が見られた問題の概要① 大問2(三)ア

【学習指導要領における内容】

〔第5学年及び第6学年〕
知識及び技能

設問番号		2 (三) ア		
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	46.0	43.4	+2.6	

解答類型						
	1	2	3	99	無解答	
自校						
県	46.0	11.5	14.5		18.6	9.3
全国	43.4	11.0	14.0		18.4	13.2

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1	◎	「競」 と解答しているもの
2		「競」 と解答しているが、「技」 と解答していないもの
3		「競」 と解答していないが、「技」 と解答しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

【設問の概要】 高山さんの文章の下線部アを、漢字を使って書き直す。

きょうぎ の作戦を考えたりします。

◆ 問題点とその改善点

【問題点】

- 学習者が新出漢字を学ぶ際、繰り返し書いて練習するなど単純作業のみによる活動を行っていることが原因となっていることが考えられる。

【改善点】

- 意味を理解している言葉の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる言葉を増やすとともに、言葉の意味や使い方に対する認識を深め、語彙を豊かにする必要がある。
 - ・ 「読むこと」「書くこと」の学習や実生活の場面において、知識及び技能（「言葉の特徴や使い方に関する事項」）の視点から学習者の姿を評価し、具体的な指導を行っていく。
 - ・ 1人1台端末を活用するなど、主体的に漢字練習に取り組む機会を設定する。

◆ 課題が見られた問題の概要② 大問1(三)

【学習指導要領における内容】

〔第5学年及び第6学年〕
思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

設問番号		1 (三)		
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	60.5	63.8	-3.3	

解答類型						
	1	2	3	4	99	無解答
自校						
県	5.5	14.4	19.1	60.5	0.1	0.4
全国	5.1	13.4	16.6	63.8	0.1	0.9

1		1 と解答しているもの
2		2 と解答しているもの
3		3 と解答しているもの
4	◎	4 と解答しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

【設問の概要】 オンラインで交流する場面において、和田さんのメモがどのように役に立ったのかを説明したのものとして、適切なものを選択する。

◆ 問題点とその改善点

【問題点】

- 中学年において、集めた材料を比較するなどして必要な事柄を選ぶ経験は積んでいるものの、目的や意図に応じて優先順位を考える（【和田さんのメモ】の「自分が伝えたいこと」「村木さんが知りたいこと」と【オンライン交流の様子の一部】の「村木さんからの質問」）など、集めた材料と材料を用いる目的や意図を関係付ける力が十分に身に付いていないことなどが考えられる。

【改善点】

- 「学校や地域を紹介し合うために、自分たちが伝えたいことと相手が知りたいこと」など、意見を交流する前に、話し合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを踏まえて、伝え合う内容を検討する場面を設定する必要がある。
 - ・ 集めた情報の内容を整理して優先順位を付けたり、必要に応じた資料を提示したりするなど、相手や目的を常に意識した言語活動となるよう指導を行っていく。
- 「振り返り」を行う際に、事実と感想、意見とを区別して話す、話し手が伝えたいことと自分が聞く必要のあることの両面を意識しながら聞くなど、観点に沿って自分の学び方を捉え直したり、情報を整理することのよさを考えたりする場面を設定する必要がある。
 - ・ 交流場面の様子（1人1台端末を活用した録画）や、ノート等の言語活動の状況を基にして、振り返り内容を具体的に言語化する指導を行っていく。

算数【小学校第6学年】

◆ 授業改善のポイント

○ 児童自ら問いをもち、言葉、図、数、式、表、グラフなどを含む学習課題を読み取り、それらを関連付けながら問題解決を図ることができるような授業設計を行うことが重要である。

◆ 正答の状況

年 度		令和6年度	令和5年度
平均正答数	県	10.0問 / 16問	9.8問 / 16問
	全国	10.1問 / 16問	10.0問 / 16問
平均正答率	県	62%	61%
	全国	63.4%	62.5%

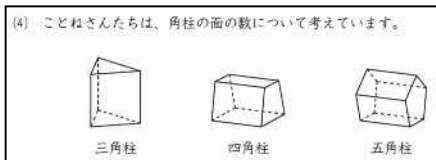
◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果:五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書くこと

課題①:家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書くこと

課題②:折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書くこと

◆ 成果が見られた問題の概要 大問3(4)



設問番号 3 (4) B 図形				
平均正答率	本県	全国	差	自校
(%)	76.7	72.0	+4.7	

ことね: 三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。

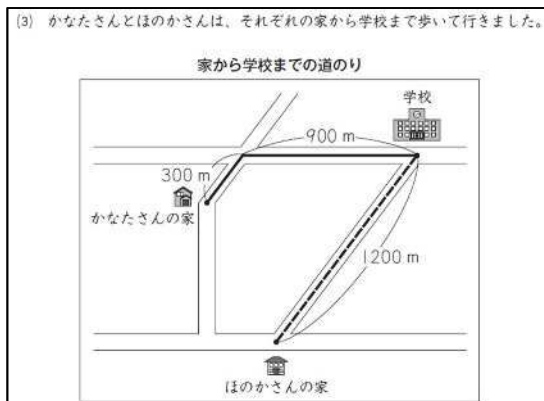
はると: 四角柱の面は6つです。

ひより: 五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。
また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのがわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。
そのとき、「底面」「側面」の2つの言葉を使いましょう。

○ 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述することの正答率は76.7%であり、全国の平均正答率よりも高い。底面や側面の数について理解し、理由とともに記述できた児童の割合がやや高く、習得できるまで確認を行う補充指導による結果によるものであると言える。

◆ 課題が見られた問題の概要① 大問4(3)



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん
2 ほのかさん

設問番号 4 (3) C 変化と関係				
平均正答率(%)	本県	全国	差	自校
	32.9	31.0	+1.9	

- A① 2人が歩いた道のりが等しいことを表す言葉や式
A② かなたさんがかかった時間の方が短いことを表す言葉や式
B① かなたさんが歩く速さを表す数や式, 言葉
B② ほのかさんが歩く速さを表す数や式, 言葉

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	1と解答し, A①, A②を全てを書いているもの	23.1	
	1と解答し, A①のみを書いているもの	31.1	
◎	1と解答し, B①, B②を全てを書いているもの	9.8	
	2と解答	20.0	
	上記以外の解答	14.3	
	無解答	1.7	

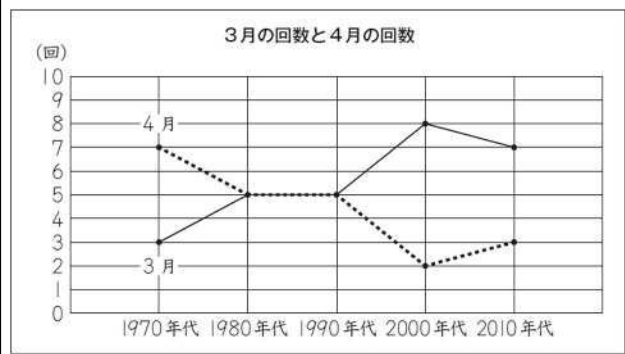
◆ 問題点とその改善点

【問題点】速さは1の方が速いと判断できており, A①(2人が歩いた道のりが等しいこと)も記述できているが, A②(かかった時間が短いこと)は記述できていない児童の割合が31.1%と高く, 判断の根拠を言葉や数を用いて記述することができていない。

【改善点】指導に当たっては, 例えば, 本設問を用いて, 二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられる。その際, 二人の歩いた道のりとかかった時間を確認し, 二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるようにすることが大切である。このとき, 道のりが等しいことだけではなく, かかった時間が短いことも説明できるようにすることも大切である。また, 道のり÷時間を用いて速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにすることも大切である。

課題が見られた問題の概要② 大問5(3)

- (3) こうたさんは, 1970年代から2010年代について, C市の桜の開花日の月を調べました。すると, 1970年代以降は, 開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。
そこで, 開花日の月について, 各年代の3月の回数と4月の回数を, 下のように折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは, 左の折れ線グラフをもとに, 気づいたことについて話し合っています。



1970年代は, 3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで, 3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また, その年代について, 3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。
ちがいが最も大きい年代と, その年代について, 3月の回数と4月の回数何回かがうかを, 言葉と数を使って書きましょう。

設問番号 5 (3) D データの活用				
平均正答率(%)	本県	全国	差	自校
	43.8	44.0	-0.2	

- ① 3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることを表す言葉
② 2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す言葉

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	①, ②を全てを書いているもの	43.8	
	①のみを書いているもの	21.0	
	上記以外の解答	26.3	
	無解答	8.9	

◆ 問題点とその改善点

【問題点】①(3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であること)は記述できているが, ②(2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であること)は記述できていない児童の割合が21.0%と高く, 折れ線グラフから必要な数値を読み取り, 言葉と数を用いて記述することができていない。

【改善点】指導に当たっては, 例えば, 本設問を用いて, 3月の回数と4月の回数の折れ線グラフを読み取って捉えたことを伝え合う活動が考えられる。その際, グラフの傾きや重なりなどに着目して, データの特徴や傾向について捉えるとともに, 折れ線グラフの数値を読み取り, 3月の回数と4月の回数の差を正しく求めることができるようにすることが大切である。さらに, グラフのどの部分やどの数値を基に判断したかを, 他者に分かるように伝えることができるようにすることも大切である。

国語【中学校第3学年】

◆ 授業改善のポイント

- 単元の指導計画を作成する中で、教材研究や言語活動研究を行い、指導事項の重点化、評価場面や評価方法の明確化を図る。
- 学習課題の提示の仕方を工夫し、知識の理解の質を高めることを意識する。（教師による一方的な提示では、学習課題の意図が生徒と共有されず、単なる作業の指示になってしまう可能性がある。）

◆ 正答の状況

年 度		令和6年度	令和5年度
平均正答数	県	8.4問 / 15問	10.5問 / 15問
	全国	8.7問 / 15問	10.5問 / 15問
平均正答率	県	56%	70%
	全国	58.1%	69.8%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成 果：行書の特徴について理解すること

課題①：記述式問題（「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」「目的に応じて必要に着目して要約する」）

課題②：文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること

◆ 成果が見られた問題の概要 大問4(三)

【学習指導要領における内容】

【第1学年】知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ(イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。《書写》

設問番号 4 (三)				
平均正答率	本県	全国	差	自校
(%)	79.6	75.6	+4.0	

【設問の概要】 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したもののとして適切なものを選択する。

【指導継続のポイント】

- 楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く指導を継続する。その際、1人1台端末を効果的に活用し、行書を書いている動画を視聴したり、ペアやグループで交流したりする機会を設定する。
 - ・楷書で書かれた漢字を見て、行書で書いたときにどのような特徴が表れるのかを予想する。
 - ・観点（行書の特徴）を明確にして、互いの書いた文字について評価・助言したりするなど、気付いたことを具体的に説明し合う。
 - ・動画視聴や交流活動で確かめたことなどを生かして、実際に書く時間を十分に確保する。



◆ 課題が見られた問題の概要① 大問1(四)

【学習指導要領における内容】

【第1学年】

思考力、判断力、表現力等

A 話すこと・聞くこと

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。《話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと)》

【設問の概要】 話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えをまとめる。

設問番号 1 (四)				
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	40.5	44.7	-4.0	

解答類型					
	1	2	3	99	無解答
自校					
県	40.5	0.0	20.1	15.6	8.3
全国	44.7	0.0	15.2	13.3	9.9

(正答の条件)
次の条件を満たして解答している。
①フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいか具体的に書いている。
②【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。
③実際に話すように書いている。

1	◎	条件①②③を満たして解答しているもの
2		条件①②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの
3		条件①③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの
4		条件②③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの
99		上記以外の解答
0		無解答

◆ 問題点とその改善点

【問題点】

- 条件③「実際に話すように書いている。」ができていないが、実際に話し合いの目的を明確にして、話題を意識しながら話が逸れないように話し合ったり、出された意見を結び付けて考えをまとめたりすることに課題がある。

【改善点】

- 考えを広げたり深めたりする話し合いの重要性を認識しながら、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにする必要がある。
- ・ 話し合いの序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理したりする場面を設定し話し合いのメモを取らせる。その後、メモを見ながら、自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べるような活動を行う。
- ・ 自分の考えが話し合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかなどを振り返る場面を設定し、「これまでに学習したことでこの単元の学習に生かしたことはどのようなことか。」「話し合ったことを踏まえて自分の考えをまとめることにはどのようなよさがあるか。」など観点に沿って自分の学びを捉え直したり、他者と共有して理解を深めたりしながら次の学びへ生かすことができるようにする。

◆ 課題が見られた問題の概要② 大問2(一)

【学習指導要領における内容】

【第2学年】

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと

ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。《精査・解釈》

【設問の概要】 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。

設問番号 2 (一)				
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	35.3	36.3	-1.0	

解答類型					
	1	2	3	99	無解答
自校					
県	35.3	30.2	26.5	7.6	0.4
全国	36.3	28.1	25.6	9.5	0.5

1	◎	1、2 と解答しているもの
2		1 と解答し、2 と解答していないもの
3		2 と解答し、1 と解答していないもの
99		上記以外の解答
0		無解答

◆ 問題点とその改善点

【問題点】

- 「第一・二段落」と「図の役割」の関係を、どちらか一つの段落しか読み取ることができていない生徒は56.7%、どちらの段落も読み取ることができていない生徒が7.6%である。文章と図表の関係を読み取る際、段落相互の関係に着目しないまま言語化していることが原因となっている可能性がある。

【改善点】

- 図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを理解することができるようにする必要がある。
- ・ 図表などが文章中にある場合とない場合とを比較し、図表などが示されていることによって何がどのように分かりやすくなるのかを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えるように指導する。
- ・ 領域間での学びを結び付けたり、国語以外の教科等での学習、実生活(新聞やウェブサイト)などに生かすように促したりする。

数学【中学校第3学年】

◆ 授業改善のポイント

○ 生徒自ら問いをもち、言葉や数、式、図、表、グラフなどを含む学習課題を読み取り、それらを関連付けながら問題解決を図ることができるような授業設計を行うことが重要である。

◆ 正答の状況

年 度		令和6年度	令和5年度
平均正答数	県	8.0問 / 16問	7.2問 / 15問
	全国	8.4問 / 16問	7.6問 / 15問
平均正答率	県	50%	48%
	全国	52.5%	51.0%

◆ 今回の調査結果から明らかになった成果と課題

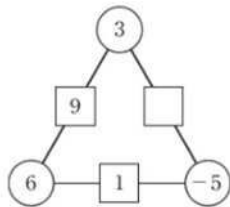
成 果: 正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3, -5を入れるとき、その和である□に入る整数を計算で求めること

課題①: 18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明すること

課題②: 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶこと

◆ 成果が見られた問題の概要 大問6(1)

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。

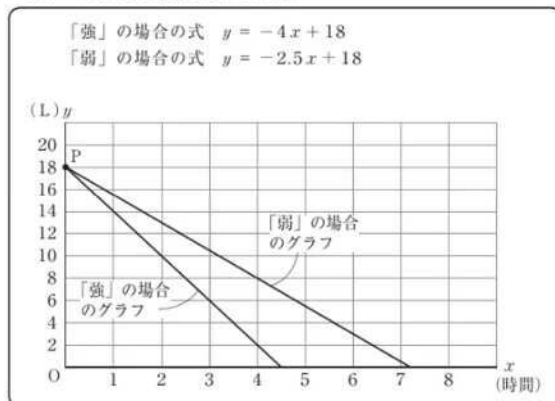


設問番号 6 (1) A 数と式				
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	90.4	90.2	+0.2	

○ 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算を行う問題の正答率は90.4%であり、全国の平均正答率よりもやや高い。これまで実施してきた鹿児島学習定着度調査でも類題を出題してきており、問題場面を理解した上で計算を行う技能は身に付いてきていると言える。

◆ 課題が見られた問題の概要① 大問8(2)

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と 「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと 「弱」の場合のグラフ

設問番号	8	(2)	C	関数
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	13.5	17.1	-3.6	

- (a)「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y=0$ を代入すること
 (b)上記(a)に対応する x の値の差を求めること
 (c)「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y 座標が0である点に注目すること
 (d)上記(c)に対応する x の値の差を求めること
 (e)上記(c)に対応する2点間の距離を読み取ること

正答	解答類型	類型 (%)	自校 (%)
◎, ○	アを選択し, (a), (b)について記述しているもの(片方も含む)	5.8	
	アを選択し, (a), (b)の記載が十分でないもの	32.2	
◎, ○	イを選択し, (c), (d), (e)について記述しているもの(片方も含む)	7.7	
	イを選択し, (c), (d), (e)の記載が十分でないもの	40.0	
	上記以外の解答	0.8	
	無解答	13.5	

◆ 問題点とその改善点

【問題点】式の傾きに注目できているものの、ストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求めることができない生徒が32.2%いる。また、グラフから灯油を使い切るまでのおよその使用時間について読み取ってはいるものの、ストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求めることができない生徒が40.0%おり、判断の根拠を数学的な表現を用いて表すことができていない。

【改善点】「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y=0$ を代入し、 x の値の差を求めたり、グラフについて、 y の値が0のときの x の値の差を求めたりして説明できるようにすることが大切である。そのため、指導に当たっては、例えば、使用時間の違いを求めた後にその方法を説明する活動を取り入れることが考えられる。その際、解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げ、問題解決の見通しを共有した場面や使用時間の違いを求める過程を共有した場面を振り返りながら、十分な説明にしていける場面を設定することが考えられる。

◆ 課題が見られた問題の概要② 大問9(2)

(2) 健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。

そこで、次の図3のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようにとめました。

図3

調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの中点のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。

健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- ◎ 点Cが点Aと中点Mの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ① 。
- ◎ 点Cが中点Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ② 。

上の ① 、 ② のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

設問番号	9	(2)	B	図形
平均正答率 (%)	本県	全国	差	自校
	23.0	26.7	-3.7	

正答	解答類型	類型 (%)	自校 (%)
◎	①をウ、②をウと解答しているもの	23.0	
	①をウ、②をアと解答しているもの	7.3	
	①をウ、②をイと解答しているもの	8.3	
	①をウ、②をエと解答しているもの	4.8	
	①をア、②をイと解答しているもの	7.5	
	①をイ、②をアと解答しているもの	8.3	
	上記以外の解答	36.8	
	無解答	4.0	

◆ 問題点とその改善点

【問題点】点Cが線分AB上であればどの位置にあっても $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° となるが、誤答、無回答の割合は合わせて77.0%と高く、演繹的に考え、問題を解決することができていない。

【改善点】指導に当たっては、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見だし、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにするとともに、条件を変えても成り立つ事柄を見出すなど、統一的・発展的に考察できるように指導することが大切である。例えば、点Cが中点Mにあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° であることから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° になることを確認することが考えられる。その上で、点Cが点Aと点Bの間を動いた場合でも、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を証明したことが成り立つかどうかを考察する活動を取り入れるなどの工夫が考えられる。

(参考資料) (1)児童質問調査【小学校】の結果概要

本県・全国の数値は、自信をもって(「1.している」「1.当てはまる」など)回答している児童の割合(%)を示してある。(白抜きの質問を除く)

◇ 児童質問調査概要(全国との差+3以上, -3以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	84.5	83.4	1.1	
2	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	40.0	39.7	0.3	
3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	56.0	56.1	-0.1	
4	(4)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)→「3時間以上」と回答した割合	2.6	3.2	-0.6	
5	(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか→「4時間以上」と回答した割合	12.1	17.7	-5.6	
6	(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)→「4時間以上」と回答した割合	7.7	11.9	-4.2	
7	(7)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	39.2	39.4	-0.2	
8	(8)	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	36.6	34.5	2.1	
9	(9)	自分には、よいところがあると思いますか	36.8	43.4	-6.6	
10	(10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	44.9	48.8	-3.9	
11	(11)	将来の夢や目標を持っていますか	66.0	60.6	5.4	
12	(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	44.8	46.0	-1.2	
13	(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	79.3	79.5	-0.2	
14	(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	27.0	30.2	-3.2	
15	(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	70.7	71.1	-0.4	
16	(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	51.6	47.2	4.4	
17	(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.8	30.3	0.5	
18	(18)	友達関係に満足していますか	64.2	62.4	1.8	
19	(19)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	49.6	50.8	-1.2	
20	(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	29.8	30.3	-0.5	
21	(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→「3時間以上」と回答した割合	6.3	11.0	-4.7	
22	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→「4時間以上」と回答した割合	3.5	7.3	-3.8	
23	(23)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(雑誌、新聞、教科書は除く)→「0~10冊」と回答した割合	18.3	14.6	3.7	
24	(24)	新聞を読んでいますか	2.6	3.7	-1.1	
25	(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	36.4	36.8	-0.4	
26	(26)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)→「家で勉強や読書をしている」と回答した割合	53.8	49.3	4.5	
27	(27)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	31.0	25.3	5.7	
28	(28-1)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	33.1	33.8	-0.7	
29	(28-2)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	55.6	58.4	-2.8	
30	(28-3)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる	47.3	46.9	0.4	
31	(28-4)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	47.4	47.6	-0.2	
32	(28-5)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	33.8	33.3	0.5	
33	(28-6)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	49.2	44.6	4.6	
34	(28-7)	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	47.2	46.2	1.0	
35	(29)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	22.2	25.9	-3.7	
36	(30)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	27.6	29.5	-1.9	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
37	(31)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	28.8	29.7	-0.9	
38	(32)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	36.0	34.4	1.6	
39	(33)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	40.0	41.4	-1.4	
40	(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	33.4	31.9	1.5	
41	(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	35.8	35.9	-0.1	
42	(36)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	48.9	47.3	1.6	
43	(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	45.2	47.8	-2.6	
44	(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	37.6	36.5	1.1	
45	(39)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	33.1	36.3	-3.2	
46	(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	34.1	34.9	-0.8	
47	(41)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	45.8	47.3	-1.5	
48	(42)	国語の勉強は好きですか	23.4	24.1	-0.7	
49	(43)	国語の勉強は大切だと思いますか	67.0	67.5	-0.5	
50	(44)	国語の授業の内容はよく分かりますか	36.6	39.2	-2.6	
51	(45)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	61.3	61.8	-0.5	
52	(46)	国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していますか	28.0	27.5	0.5	
53	(47)	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか	29.9	29.7	0.2	
54	(48)	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	36.5	37.1	-0.6	
55	(49)	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	40.0	42.9	-2.9	
56	(50)	算数の勉強は好きですか	36.0	34.0	2.0	
57	(51)	算数の勉強は大切だと思いますか	74.3	74.3	0.0	
58	(52)	算数の授業の内容はよく分かりますか	45.6	44.9	0.7	
59	(53)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	72.6	71.7	0.9	
60	(54)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	41.9	42.3	-0.4	
61	(55)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	46.5	47.0	-0.5	
62	(56)	算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	31.9	31.1	0.8	
63	(57)	算数の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか	49.1	48.1	1.0	
64	(58)	理科の勉強は好きですか	51.3	53.1	-1.8	
65	(59)	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか	48.4	49.2	-0.8	
66	(60)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	47.4	49.6	-2.2	
67	(61)	英語の勉強は好きですか	38.1	38.2	-0.1	
68	(62)	英語の勉強は大切だと思いますか	68.8	71.2	-2.4	
69	(63)	英語の授業の内容はよく分かりますか	43.4	43.6	-0.2	
70	(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか→「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	81.4	79.1	2.3	
71	(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)	35.0	32.9	2.1	
72	(算1)	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	82.1	78.7	3.4	
73	(算2)	解答時間は十分でしたか(算数)	57.2	61.3	-4.1	

(参考資料) (2)生徒質問調査【中学校】の結果概要

本県・全国の数値は、自信をもって「1.している」「1.当てはまる」など)回答している生徒の割合(%)を示してある。(白抜き質問を除く)

◇ 生徒質問調査概要(全国との差+3以上、-3以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	82.5	79.1	3.4	
2	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	39.0	34.9	4.1	
3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	59.2	55.3	3.9	
4	(4)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)→「3時間以上」と回答した割合	1.7	2.3	-0.6	
5	(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか→「4時間以上」と回答した割合	8.8	16.6	-7.8	
6	(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)→「4時間以上」と回答した割合	9.4	18.2	-8.8	
7	(7)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	34.5	34.0	0.5	
8	(8)	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	30.2	28.4	1.8	
9	(9)	自分には、よいところがあると思いますか	36.0	40.4	-4.4	
10	(10)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	38.9	44.2	-5.3	
11	(11)	将来の夢や目標を持っていますか	39.3	36.1	3.2	
12	(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか	38.0	38.3	-0.3	
13	(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	79.9	77.5	2.4	
14	(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	24.8	28.7	-3.9	
15	(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	68.7	68.6	0.1	
16	(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	46.3	43.5	2.8	
17	(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	28.4	30.3	-1.9	
18	(18)	友達関係に満足していますか	56.2	55.0	1.2	
19	(19)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	42.8	44.6	-1.8	
20	(20)	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	26.8	28.2	-1.4	
21	(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→「3時間以上」と回答した割合	6.0	9.2	-3.2	
22	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)→「4時間以上」と回答した割合	4.2	5.7	-1.5	
23	(23)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)→「0~10冊」と回答した割合	22.3	18.0	4.3	
24	(24)	新聞を読んでいますか	1.8	2.1	-0.3	
25	(25)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	26.4	26.4	0.0	
26	(26)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)→「学校の部活動に参加している」と回答した割合	64.0	71.1	-7.1	
27	(27)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	31.6	31.0	0.6	
28	(28-1)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	26.5	28.7	-2.2	
29	(28-2)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	56.7	62.8	-6.1	
30	(28-3)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる	38.5	39.1	-0.6	
31	(28-4)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	40.3	42.9	-2.6	
32	(28-5)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	27.8	30.1	-2.3	
33	(28-6)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	42.1	41.0	1.1	
34	(28-7)	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	38.7	39.8	-1.1	
35	(29)	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	16.6	22.2	-5.6	
36	(30)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	24.1	27.2	-3.1	
37	(31)	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	20.9	24.7	-3.8	
38	(32)	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	21.8	24.9	-3.1	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
39	(33)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	34.5	36.4	-1.9	
40	(34)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	26.1	27.1	-1.0	
41	(35)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	26.2	27.5	-1.3	
42	(36)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださっていると思いますか	32.7	35.5	-2.8	
43	(37)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	43.6	46.1	-2.5	
44	(38)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	33.3	33.7	-0.4	
45	(39)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	30.0	35.5	-5.5	
46	(40)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	27.8	30.2	-2.4	
47	(41)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	51.4	49.8	1.6	
48	(42)	国語の勉強は好きですか	21.6	24.4	-2.8	
49	(43)	国語の勉強は大切だと思いますか	64.2	62.4	1.8	
50	(44)	国語の授業の内容はよく分かりますか	27.8	32.0	-4.2	
51	(45)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	55.9	52.3	3.6	
52	(46)	国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか	23.0	26.2	-3.2	
53	(47)	国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか	26.1	28.8	-2.7	
54	(48)	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか	26.9	28.3	-1.4	
55	(49)	国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか	27.0	30.1	-3.1	
56	(50)	数学の勉強は好きですか	28.6	29.4	-0.8	
57	(51)	数学の勉強は大切だと思いますか	55.1	52.8	2.3	
58	(52)	数学の授業の内容はよく分かりますか	32.5	35.1	-2.6	
59	(53)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	43.8	40.0	3.8	
60	(54)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	23.0	23.4	-0.4	
61	(55)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	35.4	37.1	-1.7	
62	(56)	数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか	17.7	18.9	-1.2	
63	(57)	数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか	35.7	34.5	1.2	
64	(58)	理科の勉強は好きですか	33.4	33.3	0.1	
65	(59)	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ちたり問題を見いだしたりすることがあります	30.0	32.5	-2.5	
66	(60)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	25.1	27.4	-2.3	
67	(61)	1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	34.5	37.1	-2.6	
68	(62)	1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	36.1	38.8	-2.7	
69	(63)	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝える活動が行われていたと思いますか	21.5	28.1	-6.6	
70	(64)	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	34.2	44.0	-9.8	
71	(65)	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	39.6	44.9	-5.3	
72	(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	74.6	72.0	2.6	
73	(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)	31.1	33.2	-2.1	
74	(数1)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか →「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	51.5	50.0	1.5	
75	(数2)	解答時間は十分でしたか(数学)	32.0	41.0	-9.0	

(参考資料) (3) 学校質問調査【小学校】の結果概要

本県・全国の数値は、自信をもって(「1. そう思う」「1. よくしている」など)回答している学校の割合(%)を示してある。(白抜きの質問を除く)

◇ 学校質問調査概要【小学校】(全国との差+5以上, -5以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(7)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	44.8	38.9	5.9	
2	(8)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか	40.9	52.2	-11.3	
3	(9)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	55.6	43.7	11.9	
4	(10)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	70.9	59.5	11.4	
5	(11)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか	35.6	32.8	2.8	
6	(12)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	50.4	38.8	11.6	
7	(13)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	51.5	40.4	11.1	
8	(14)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	53.4	48.1	5.3	
9	(15)	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	46.8	41.4	5.4	
10	(16)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	62.5	62.3	0.2	
11	(17)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	40.7	34.1	6.6	
12	(18)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	33.6	27.1	6.5	
13	(19)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)→「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主任もしくは研究主任が担っている」と回答した割合	84.7	78.7	6.0	
14	(20)	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか	70.7	65.2	5.5	
15	(21)	各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか	85.3	81.0	4.3	
16	(22)	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか	32.5	33.9	-1.4	
17	(23)	教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか	71.3	72.3	-1.0	
18	(24)	ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	51.5	41.7	9.8	
19	(25)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	23.5	20.1	3.4	
20	(26)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	15.3	12.4	2.9	
21	(27)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	20.7	19.6	1.1	
22	(28)	調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	32.8	31.7	1.1	
23	(29)	調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか	12.9	9.2	3.7	
24	(30)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	39.0	26.5	12.5	
25	(31)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	40.9	32.8	8.1	
26	(32)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	39.4	34.0	5.4	
27	(33)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	36.2	29.2	7.0	
28	(34)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	31.5	20.3	11.2	
29	(35)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	23.1	18.6	4.5	
30	(36)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	33.0	33.1	-0.1	
31	(37)	調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	32.1	37.1	-5.0	
32	(38)	調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	31.0	32.1	-1.1	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
33	(39)	調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	43.3	35.2	8.1	
34	(40)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	24.1	22.6	1.5	
35	(41)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導を行いましたか	26.3	19.5	6.8	
36	(42)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか	30.2	22.2	8.0	
37	(43)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか	36.6	29.8	6.8	
38	(44)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか	37.3	35.5	1.8	
39	(45)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	32.5	27.6	4.9	
40	(46)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	40.9	35.9	5.0	
41	(47)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	46.3	44.0	2.3	
42	(48)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、児童がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか	45.9	38.5	7.4	
43	(49)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見出すことができる指導を行いましたか	42.7	32.7	10.0	
44	(50)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	43.8	36.7	7.1	
45	(51)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	46.6	38.7	7.9	
46	(52)	学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか	21.1	18.0	3.1	
47	(53)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	73.9	76.0	-2.1	
48	(54)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	68.3	60.5	7.8	
49	(55)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	43.1	39.0	4.1	
50	(56)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	75.4	69.0	6.4	
51	(57)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	44.6	32.7	11.9	
52	(58)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	32.1	19.7	12.4	
53	(59)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	41.4	32.1	9.3	
54	(60)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	25.6	17.4	8.2	
55	(61)	調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	26.3	19.3	7.0	
56	(62)	前年度に、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか→「週1回以上」と回答した割合	2.8	2.0	0.8	
57	(63)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか→「よく活用している」と回答した割合	18.8	36.5	-17.7	
58	(64)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか→「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合	5.6	21.9	-16.3	
59	(65-1)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校児童に対する学習活動等の支援(「65-2」の授業配信を含む)→「ほぼ毎日」と回答した割合	8.4	16.6	-8.2	
60	(65-2)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校児童に対する授業配信→「ほぼ毎日」と回答した割合	7.5	15.7	-8.2	
61	(65-3)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	31.0	31.5	-0.5	
62	(65-4)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人児童に対する学習活動等の支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	3.4	9.6	-6.2	
63	(65-5)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)児童の心身の状況の把握→「ほぼ毎日」と回答した割合	16.6	26.1	-9.5	
64	(65-6)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6)児童に対するオンラインを活用した相談・支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	3.9	6.4	-2.5	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
65	(66)	障害のある児童が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	3.7	5.3	-1.6	
66	(67)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	52.8	44.7	8.1	
67	(68)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	28.0	18.8	9.2	
68	(69)	職場見学を行っていますか	44.2	43.2	1.0	
69	(70)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	40.3	36.7	3.6	
70	(71)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	47.6	47.2	0.4	
71	(72)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	37.3	36.0	1.3	
72	(73)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	36.6	27.7	8.9	
73	(74)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	53.4	34.6	18.8	
74	(75)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか→「よく行っている」と回答した割合	46.1	31.7	14.4	
75	(76)	令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）→「よく行った」と回答した割合	47.8	26.1	21.7	

(参考資料) (4) 学校質問調査【中学校】の結果概要

本県・全国の数値は、自信をもって(「I. そう思う」「I. よくしている」など)回答している学校の割合(%)を示してある。(白抜きの質問を除く)

◇ 学校質問調査概要【中学校】(全国との差+5以上, -5以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(7)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	56.1	57.9	-1.8	
2	(8)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか	51.2	64.0	-12.8	
3	(9)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	44.9	31.7	13.2	
4	(10)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	62.0	46.7	15.3	
5	(11)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか	30.7	28.8	1.9	
6	(12)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	39.0	35.4	3.6	
7	(13)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	42.9	40.5	2.4	
8	(14)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	42.0	36.0	6.0	
9	(15)	言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	47.3	37.8	9.5	
10	(16)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	55.6	47.6	8.0	
11	(17)	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	38.0	30.9	7.1	
12	(18)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	27.3	24.3	3.0	
13	(19)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)→「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主任もしくは研究主任が担っている」と回答した割合	78.0	73.7	4.3	
14	(20)	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか	63.9	59.9	4.0	
15	(21)	各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか	83.9	81.1	2.8	
16	(22)	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか	29.8	34.1	-4.3	
17	(23)	教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか	57.1	63.6	-6.5	
18	(24)	ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	44.9	40.2	4.7	
19	(25)	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	17.6	20.6	-3.0	
20	(26)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	12.2	16.2	-4.0	
21	(27)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	24.4	24.0	0.4	
22	(28)	調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	32.2	37.0	-4.8	
23	(29)	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	6.8	7.9	-1.1	
24	(30)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	27.3	21.2	6.1	
25	(31)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	25.4	30.4	-5.0	
26	(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	27.8	31.4	-3.6	
27	(33)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	22.9	26.1	-3.2	
28	(34)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	17.1	19.1	-2.0	
29	(35)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	13.7	14.8	-1.1	
30	(36)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	41.5	37.7	3.8	
31	(37)	調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	32.7	37.9	-5.2	
32	(38)	調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	27.8	32.2	-4.4	
33	(39)	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	43.9	42.2	1.7	
34	(40)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	27.3	30.9	-3.6	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
35	(41)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行いましたか	32.2	28.7	3.5	
36	(42)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行いましたか	29.3	29.7	-0.4	
37	(43)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか	46.3	39.4	6.9	
38	(44)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行いましたか	37.1	35.3	1.8	
39	(45)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	19.0	22.3	-3.3	
40	(46)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	25.4	22.7	2.7	
41	(47)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	33.2	41.6	-8.4	
42	(48)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか	35.6	42.3	-6.7	
43	(49)	調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	36.6	33.0	3.6	
44	(50)	調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	42.4	42.8	-0.4	
45	(51)	調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	29.3	26.2	3.1	
46	(52)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて(一文一文ではなく全体)の概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	42.0	38.2	3.8	
47	(53)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで(一文一文ではなく全体)の概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	38.5	41.8	-3.3	
48	(54)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	23.9	24.8	-0.9	
49	(55)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	31.7	33.9	-2.2	
50	(56)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか	35.1	34.7	0.4	
51	(57)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	69.8	74.6	-4.8	
52	(58)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか	67.3	52.0	15.3	
53	(59)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	30.7	35.1	-4.4	
54	(60)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか→「ほぼ毎日」と回答した割合	66.8	67.5	-0.7	
55	(61)	調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	27.8	33.0	-5.2	
56	(62)	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	22.0	19.4	2.6	
57	(63)	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	32.7	31.1	1.6	
58	(64)	調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	17.6	16.9	0.7	
59	(65)	調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか→「ほぼ毎日」と回答した割合	14.1	14.8	-0.7	
60	(66)	前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか→「週1回以上」と回答した割合	2.9	1.6	1.3	
61	(67)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか→「よく活用している」と回答した割合	24.9	38.1	-13.2	
62	(68)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるような状態にしていますか→「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合	13.2	26.6	-13.4	
63	(69-1)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校生徒に対する学習活動等の支援((69-2)の授業配信を含む)→「ほぼ毎日」と回答した割合	16.6	26.7	-10.1	
64	(69-2)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校生徒に対する授業配信→「ほぼ毎日」と回答した割合	9.8	28.7	-18.9	
65	(69-3)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	32.7	33.7	-1.0	
66	(69-4)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人生徒に対する学習活動等の支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	2.4	11.3	-8.9	
67	(69-5)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)生徒の心身の状況の把握→「ほぼ毎日」と回答した割合	26.8	30.7	-3.9	
68	(69-6)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6)生徒に対するオンラインを活用した相談・支援→「ほぼ毎日」と回答した割合	4.9	8.9	-4.0	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	各校
69	(70)	障害のある生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	3.4	4.9	-1.5	
70	(71)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	42.4	41.1	1.3	
71	(72)	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか→「よく行った」と回答した割合	32.7	24.8	7.9	
72	(73)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか→「実施しなかった」と回答した割合	34.6	23.7	10.9	
73	(74)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	26.8	28.6	-1.8	
74	(75)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	35.1	32.9	2.2	
75	(76)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	21.5	24.7	-3.2	
76	(77)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	30.7	21.6	9.1	
77	(78)	令和5年度全国学力・学習状況調査の本校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	42.0	27.1	14.9	
78	(79)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか→「よく行っている」と回答した割合	39.0	25.6	13.4	
79	(80)	令和5年度全国学力・学習状況調査の本校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)→「よく行った」と回答した割合	41.0	23.3	17.7	